

本部だより

●第41号



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>



携帯サイト

●発行日:令和2年2月1日 ●発行人:高林芳夫
●本部:181-0012 東京都三鷹市上連雀8-7-8
●電話 & FAX:0422-77-8557 ●編集人:鈴木千春



みたままつりに掲示された会員・小田原豊さんの作品(埼玉県在住)

ごあいさつ

高林芳夫

新年あけましておめでとうございます。

お健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は、各地で自然災害が発生し、大勢の方が被害に遭われました。慎んでお見舞い申し上げます。

9月にはラグビーワールドカップがアジアで初めて日本で開催されました。日本選手の活躍は素晴らしいものでした。世界の強豪を相手に4連勝してベスト8に入りました。一か月間、感動と勇気と希望を頂きました。国民の心がひとつにまとまった素晴らしい大会でした。

今年7月には東京オリンピックが開かれます。マラソン・競歩は札幌での開催となり少々残念ですが、ラグビーワールドカップと同じように、国民がひとつにまとまって、オリンピックを成功させましょう。

この様に現在の日本は、世界のリーダーとして国際社会に貢献しています

この日本の繁栄の裏には、礎となられた多くの戦争犠牲者があつた事を、決して忘れてはなりません。感謝の誠を捧げましょう。

皆様、今年も健康で希望に満ちた一年でありますようお祈り申し上げます。

令和2年度 慰霊祭、総会、直会のご案内

令和2年度の慰霊祭・総会・直会を次の通り開催いたします。皆様お誘いあわせの上ご参列下さい。(お子さんや、お孫さんの参加を歓迎いたします)

※遠方からお越しの皆様は考慮し、昇殿参拝の時間を12時といたしました。

■日 時 令和2年4月5日(日)

■受付 靖国神社参集殿前にて

10時より受付開始。10時45分までに、お済ませください。

■会場 参集殿二階「楠の間」

■総会 11時より同会場にて開催

■集合写真 11時30分より(予定)

■慰霊祭 昇殿参拝 12時より

■直会 昨年の直会が好評につき、今年も食事会といたします。

ホテルグランドヒル市ヶ谷に移動し、お食事を頂きながら会員相互の親睦を図ります。皆様のご参加をお待ちしております。

会費お一人様 6千円

終了予定時刻 15時

事務局よりお願い

●慰霊祭出欠はがき

同封のはがきに必要事項をご記入のうえ、2月末日までに本部へ届くよう投函下さい。欠席の方も同様に投函下さい。

●お振込みのお願い

同封の振込み用紙にて2月末日までにお振込みをお願い致します。

- ・年会費 3千円
- ・慰霊祭参加者お一人につき 玉串料 5百円
- ・直会参加者 6千円
- ・寄付金 ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

永代神楽祭 高林芳夫

令和元年7月15日(祝日) 靖国神社において17回目の永代神楽祭を斎行いたしました。

ました。

お祓いを受けた後、ご本殿へと進み、巫女による御神前への山の幸、海の幸、御神酒を奉奠。神職による祝詞奏上、御霊のお名前がお一人お一人読み上げられました。雅楽の演奏に合せ、巫女による浦安の舞が披露され優雅な舞に、身も心も洗われた気がいたします。



会を代表して、小田原豊、佐藤知子、高林芳夫の3名が玉串奉奠、それに合せ全員で二礼二拍手一礼の作法にて拝礼。永代神楽祭は滞りなく

終了いたしました。

永代神楽祭参列者

東京都 米林義昭・米林美智子

松尾正輝

埼玉県 佐藤知子・小室洋子

小田原利子・小田原豊

小田原靖・高林芳夫・高林正子

神奈川県 清水雅尚

岐阜県 吉田正明

計12名

当日はみたままつりの最中でした。みたままつりは、日本古来の信仰にちなんで昭和22年に始まり、境内に数多くの献灯(みあかし)を掲げ、戦没者のみたまを慰める夏まつりです。大型献灯、小型献灯、ぼんぼり、各界著名人による献句、献画等多くの作品が展示されておりました。

小田原豊さん当会会員
ミュージシャンドロー
現在ベツカで活躍中



小田原さんの祖父の長造さん
ウエゼン島で戦死



全国戦没者追悼式 佐藤知子

令和元年8月15日、日本武道館に於いて、天皇后陛下ご臨席のもと、全国戦没者追悼式が挙行されました。国歌斉唱、内閣総理大臣の式辞があり、正午の時報にあわせ一同黙祷を行いました。天皇帝下のお言葉につづいて、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、遺族代表の追悼の辞が述べられました。ここで天皇后陛下がご退席になりました。その後、内閣総理大臣、遺族代表、青少年代表、来賓、地方公共団体代表、最後に厚生労働大臣が献花をして式典は滞りなく終了いたしました。

74年前の8月15日は、ジリジリと暑い日でした。学校の帰り道、玉音放送で戦争が終わった事を知りました。このたび戦後74年にして初めて、式典に参列させて頂きました。感無量の一言につきました。出来得るならば、母を参列させてあげたかった(その母も逝去して23年になりました)。この大戦で命を落とし、生きて帰れなかった将兵、三百万とも三百万ともいわれます。国破れるを知ら

ず疎開して食料増産に、出征兵士の農家への手伝いと過ごした小学六年生の頃を思い出します。

8月15日を前に最近私はよく、永六輔作詞の「戦争が終わった日」を口ずさみます。「帰って来ない人達のあの声それを歌い伝えたい」を嘯みしめながら。決して忘れてはならない。人の命を、大事に大切にできなかったあの戦争を私は憎みます。

東京都戦没者追悼式 清水雅尚

令和元年8月15日東京都戦没者追悼式が文京区の文京シビックホールで挙行され、会長代理として来賓参列しました。

国歌斉唱、小池百合子東京都知事の式辞から始まり、正午の時報に合わせたの黙祷、放送による天皇后陛下のお言葉があり、都議会議長をはじめ、各界の代表者、遺族関係者の追悼の言葉がありました。

戦争によって引き起こされた悲劇を改めて思い出しました。最後に都知事をはじめとして関係者の



献花があり、来賓の献花に移りました。マーシャル方面遺族会代表として2番目に指名され献花をしました。

年々少なくなっていく遺族会ですが、当会の存在も大事になって行きます。世交代も含め協力しあって行きたいと思えます。

新入会員（）内は英霊との続柄

東京都 小林すみ子様（子）

ご入会ありがとうございます。

訃報

長野県 山田久幸様

謹んでお悔み申し上げます。

寄付者ご芳名

前号でお名前の記入漏れがありました。お詫びして、改めてここに掲載いたします。

6月～9月迄（敬称略）

秋田県・打矢和子

東京都・小林すみ子

神奈川県・榎本益明

静岡県・大畑幸夫

京都府・東地井義訓

和歌山県・福井敬典

広島県・奥井國夫・瀬戸隆子

藤本泰子

愛媛県・山村一郎・長岡俊夫

三好エミ子・渡部 守

香川県・富田佳代子

岐阜県・堀尾洋平・吉田正明

山口県・安藤正子・郡 義典

以上18名様から合計5万6千円のご寄付を頂戴致しました。心より感謝申し上げます。



千鳥ヶ淵戦没者墓苑創建60周年記念秋季慰霊祭 米林美智子

令和元年10月18日千鳥ヶ淵戦没者墓苑に於いて（公）千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会による創建60周年記念式典が挙行されました。

秋篠宮皇嗣殿下、同妃殿下のご臨席を仰ぎ自衛隊音楽隊の演奏による国歌斉唱に続き、献茶の儀や昭和天皇御製誦、舞踊があり、続いて上皇陛下御製奉誦、詩舞に音羽ゆりかご会による童謡唱歌奉唱がありました。

秋篠宮皇嗣殿下、同妃殿下の拝礼の後、政界、各国代表の献花に続き、陸海空各自衛隊代表部隊拝礼が行われました。その後、遺族代表の献花や一般焼香で幕を閉じました。

あいにくの雨模様でしたが、厳肅な空気に包まれて、ここに眠る37万69柱のご遺骨にマーシャル方面遺族会として、献花と焼香をして拝礼して参りました。

5月には昨年、遺骨収集集団によって収容されたウオツゼ島の48柱もここに奉安されます。皆様にもお参りしていただけることを切望致します。

ウオツゼ島 遺骨収容報告

鈴木千春

平成31年2月20日～3月7日、ウオツゼ島の遺骨収容に行った。島に残る遺骨2700柱、その中には私の大叔父がいる。派遣団は、日本戦没者遺骨収集推進協会3名、遺骨鑑定員1名、日本遺族会1名、厚生労働省1名、日本青年遺骨収集団から私、の合計7名だった。

マキン、タラワの日本軍が玉砕した後、マーシャル諸島は敵地との最前線となった。海軍は事前に島民を別の島に避難させた。ウオツゼには私の大叔父の所属する海軍第64警備隊、航空部隊など約3500名の将兵が配備された。戦跡に立つと、将兵の活気ある声、号令やラッパが聞こえてくるようだった。

昭和19年からマーシャル全域へ、米軍の空襲、艦砲射撃が激しさを増す。第六根拠地隊司令部のあったクエゼリンは、1月末に米軍に上陸され、頑強に抵抗したが2月6日玉砕する。ウオツゼ、マロエラップ、ミリ、ヤルトなど、上陸を免れた島は、連日爆撃を受け、補給路も

脱出路もないまま敵中に孤立した。籠城を余儀なくされ、食糧が尽きた。戦闘より恐ろしい飢餓地獄となり多数の餓死者が出る。資料に「ウオツゼの飢餓はミリやガダルカナル以上の凄惨、苛烈な状態だった」と記載があった。マーシャルの戦没者は3種類。米軍に上陸された島は「玉砕」、上陸されなかった島は「餓死」と食料窃盗に対する「処刑」だ。兵士は、前途に待ち受ける「戦死」を覚悟で出征したはずだが、南の孤島で飢餓に苦しむとは夢にも思わなかっただろう。

ウオツゼは首都マジユロから約3百キロ。ホテルも食堂も病院もない。私たちは簡易宿泊所と民家、4カ所に分かれて宿泊した。約30名の島民が収容を手伝ってくれた。3班に分かれて、昨年調査した場所から収容を開始、続々と全身骨を発見した。

昭和19年2月、空襲を受け第八〇二航空隊本部・電信室は、窓からの直撃弾で30名が犠牲になった。このときの戦没者埋葬地が、私の班の担当エリア。八〇二空の嶋大佐、電信員、主計兵、氣象員も埋葬されているはず。下顎骨に残る、き



第八〇二航空隊本部・電信室

れいな歯から若者が多いことも判明。骨は全身の方もいるが、身体の一部しか無い方もいた。直撃弾の凄惨な被害状況を想像する。

私たちの任務は遺骨を見つけ、原形のまま全身分を掘り出し、番号をふり、記録をとり、お一人ずつ袋に保存し、遺骨鑑定士に渡すこと。それを素早く丁寧に繰り返す。身元を確認できるもの（記名の万年筆や印鑑など）も捜す。最終的な柱数は、鑑定士がとりまとめる。

島では、ヤシの実が落ちて頭に当た

り、即死したり半身不随になった人がいる。どのヤシの実が落ちそうかは、島民にしかわからない。ちょうど全身骨を収容中の私の頭上のヤシの実が、「落ちそうだから離れる」と島民に言われたが、せっかくここまで来て、限られた時間だ、そうなくても「運命」と腹をくくって作業をした。すると英霊に守っていたのだのだろうか、無事にその場の遺骨収容ができた。頭蓋骨だけの横向き英霊は、苦悶の表情に見えた。どうか痛みから解放されていますように。一緒に日本に帰りましょうね。私は毎日、遺骨と会話をしていた。

島は高温多湿、たびたびスコールが来ると、作業は中断、土中はドロドロになる。雨があがると強烈な陽射し。若い隊員が熱中症で倒れた。

ある日、島の老女が、日本の童謡「靴がなる」を歌っていた。日本語歌詞の発音は完璧だった。私は嬉しくて彼女と一緒に歌った。マーシャル語は難しいが、日本語由来の単語があり、チャンポ（散歩）、チャチミ（刺身）など数多い。

夜も私たちは、記録・報告や翌日の準

備と忙しい。生活面では水が止まる、停電など次々とトラブルが起きる。慣れない環境下、疲れも蓄積していた。私は全身筋肉痛と手首の腱鞘炎、腰痛が悪化。眠りの浅い夜は、大腿骨を見つけた夢を見た。

別班は島の南部で20柱以上を、私の班は22柱を収容した。この22柱は籠城以前の空襲の犠牲者。飢餓前の体力があった時期なので仲間きちんと埋葬された（ある意味、恵まれた）戦没者だ。その後は飢餓で穴を掘る体力もなくなり餓死者の遺体は野ざらしになった。島民は、骨を発見した際、「今まで雑に扱っていた、ごめんさい」と言った。彼らにとつて地表の骨は珍しくなかったのだろう。収容できたのは合計48柱。身元確認できるものはなかった。第64警備隊の埋葬地はわからず、大叔父の眠る場所不明のままだ。

最終日、美しい内海に向け、焼骨のやぐらを並べた。ヤシの実の燃料に点火、ポツと炎が上がる。骨が焼ける音、青い海に向かい薄く立ち昇る煙。英霊は筆舌に尽くしがたい労苦を味わって亡くなっ



た。その死を悼み、彼らの無念を想像した瞬間、「悲しみの塊」が私の体に落ちてきた。そんな感覚を覚えた。国の命令で故郷からこんなにも遠く、暑く、環境の厳しい地に来て、餓死し、誰も迎えにこない・・・俺たちを帰せ。骨が焼ける間、涙が止まらなかった。

骨上げは炎天下の正午過ぎ、強烈な紫外線を浴びながら48名の骨を一人ずつ白布に入れて運ぶ。砂地なので足重く、倒れそうだったが、最後の力を振り絞った。英霊はもともっと辛い状況だったのだ。彼らの我慢、辛抱、犠牲が、日本の繁栄の礎となった。彼らから恩恵をもらうだけとなった私たち日本人。本来、

果たすべき役割は何か。未だ帰れぬ英霊が多く存在する事実を一人が、わが事として考えなければいけない。絆を絶つてはいけ

ない。英霊は待ち続けている。

3月7日雨の中、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて厚労省への遺骨引き渡し式。自衛隊音楽隊が演奏する中、遺骨を抱いて入場し、厚労省職員に手渡した。ここに至るまでの多くの出会い、長かった道のりが脳裏を駆けめぐった。今後ウオッセの遺骨収容が長く続くことを祈念する。

※本文は雑誌「丸」2019年8月号への寄稿文を会報用に要約しました。

●48柱は現在、厚労省内の霊安室に安置されています。お参りを希望する方は事務局にご連絡下さい。5月に千鳥ヶ淵戦没者墓苑に納骨の予定です。

厚労省・霊安室 マーシャル諸島
戦没者遺骨に参拝して

埼玉県所沢市 小松順子86歳

9月24日、夏の名残が色濃くあるなか、霞が関の厚労省に行きました。佐藤知子様からお誘いがあり、妹と私の3人で出向きました。佐藤様が事前に連絡を取って下さったのでスムーズに入れました。8畳ほどの霊安室には「マーシャル

諸島戦没者の霊」と書かれた白木の箱5個が安置され、香も焚かれ、厳肅な雰囲気にも包まれていました。「長い間ご苦労様でした、安らかに眠り下さい」通り一遍の言葉のようですが、共に戦い、武運つたなく最期を迎えた父を含め、多くの方々から伝えました。春の靖国参拝とはまた違ったかたちで慰霊ができ、お誘い下さった佐藤様に本当に感謝しています。

帰宅後、僅かに残っている写真や資料に目を通し、ありし日の父を偲びました。靖国の大鳥居をバックに5才ぐらいの私と父が写っている二人だけの写真、昭和17年と18年の2回青森県の大湊で夏休み一ヶ月間、家族皆で過ごし海水浴に行ったことなど鮮明に思い出しました。

平成18年10月、厚労省に父の手がかりが得られないかと手紙で伺った結果、「該当者はいない」との電話連絡があり、釈然としない気持ちで、それでも毎年の春の慰霊祭には参加していました。計らずも昨年、マーシャルにご縁のある大川史織さんの資料から確実に父が在籍していたことを聞かされ、今回の参拝は

余計気持ちが入りました。妹が詠んだ句「娘ら五人 父に託され慰霊毎 語りて母は百歳で逝く」。9年前、悔いなき人生を全うした母を父は見守っていてくれたのでしよう、誇れる両親です。

(環礁63号に母・高橋とし子の投稿記事、本部だより38号に、妹・大井和子の投稿記事あり)

●事務局よりお知らせ

※昭和42年、浮田信家・佐竹エス両氏が調査・慰霊のため6か月に及ぶ現地訪問の8ミリフィルムが見つかりました。タロア・マキン・トラワ・ヤルト・マロエラップ・ウオッセ・ミリの貴重なカラーフィルムをDVDにして事務局に保管しています。

※マーシャル諸島で Dengue 熱が発生し、マジユロから他の環礁への渡航が禁止となり、2月に予定していたウオッセの遺骨収容派遣は、残念ながら中止となりました。





重機を入れて捜索する



このエリアで22柱を収容



煙は日本の方角に流れた



お一人分ずつ白布に入れる



かけがえのないメンバー



成田空港で厚労省職員が英霊を出迎える



現地での追悼式 島民も多く参列してくれた